# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

61-085440

(43) Date of publication of application: 01.05.1986

(51)Int.CI.

C08G 73/06

(21)Application number : 59-206142

(71)Applicant: SHOWA DENKO KK

(22)Date of filing:

03.10.1984 (72)Inv

(72)Inventor: NAITO KAZUMI

**IKEZAKI TAKASHI** 

## (54) POLYAMINOPYRIDINE

### (57)Abstract:

PURPOSE: A compound useful for various devices, producible at low cost, stable in air, showing highly electrical conductivity when it is doped with a dopant, obtained by treating aminopyridine with an oxidizing agent or a salt, followed by treating it with an acid or a halide. CONSTITUTION: A polyaminopyridine having a structural unit shown by the formula I and/or formula II (one of Z1, Z2, and Z3 is nitrogen, and the rest two are carbon; Y1 is H, or  $\leq$  6C hydrocarbon; Y-2 is anion; R is H or  $\leq$ 6C saturated hydrocarbon) as an essential structural unit. It is obtained by treating aminopyridine with an oxidizing agent such as aluminum chloride, etc., or a salt such as Bu4NCI4, etc., followed by treating it with a protonic acid or methyl iodide, etc.





### **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

### ⑫ 公 開 特 許 公 報 (A) 昭61-85440

· @Int Cl. •

識別記号

庁内整理番号

@公開 昭和61年(1986)5月1日

C 08 G 73/06

2102 - 41

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

❷発明の名称

ポリアミノピリジン

②特 額 昭59-206142

類 昭59(1984)10月3日 22日

@発 明 者

美

東京都大田区多摩川2-24-25 昭和電工株式会社内

勿発 明

隆

東京都大田区多摩川2-24-25 昭和電工株式会社内

昭和電工株式会社

東京都港区芝大門1丁目13番9号

20代 理 弁理士 菊地 精一

## 1. 於明の名称

ポリアミノピリグン

## 2. 特許請求の範囲

下記構造単位(1) および/または(2) を必須請

$$\begin{array}{c|c}
\hline
 & & & & & & & \\
\hline
 & & & & \\
\hline
 & & & & \\
\hline
 & & & & \\
\hline
 & & & & \\
\hline
 & & & &$$

( ) は 成 単 位 中 、 Z 1 . Z 2 . Z 3 の い ず れ か 1 つ は空流であり残り2つは炭素。また、Yıは 水素または炭素数6以下の炭化水溶基であり、 Yz <sup>台</sup>は殴イオンを示し、Rは水紧または炭素 位6以下の他和以化水素基である。)

### 3. 発明の詳細な説明

本苑明は折規な真分子に関するものである。さ

らに詳しくは、空気中で安定であり、適当なドー パントをドーピングすることにより電砂性を介す る新規な百分子に関するものである。

ポリアセチレンやポリピロールで代表される羽 群性喜分子は、適当なドーパントをドープするこ とによりその電導度が10<sup>-10</sup> から10<sup>2</sup> S / cm まで変化するため、極めて工泵的利用価値が高い 索材である。しかしながら、ポリアセチレンは空 気中で不安定であるという欠点を行し、またポリ ピロールは、製造コスト的に不利な電解垂合とい う特異な重合方法でしか商監導性を与えるポリマ ーが得られないという欠点を有している。

本発明者等は、これらの欠点を克服した斯しい 館退性商分子を得るべく鋭息研究した精災、下記 (1) および/または(2) を必須磷酸単位とする水 リアミノビリジンは、空気中で安定であり、過じ なドーパントをドープすることにより背沿導性を 示し、また比較的低コストで製造できることを見 St L & .

即ら本発明は下記構造印位(1) および/ または

(2) を必須協成単位とするポリアミノビリジンに のする。

( 構成単位中、 Z 1 . Z 2 . Z 3 のいずれか1つは窒素であり残り2つは炭素。また、 Y 1 は水然または炭素数6以下の炭化水素基であり、 Y 2 <sup>○</sup> は陥イオンを示し、R は水素または炭素数6以下の燃和炭化水素器である。)

上記館イオンY2 <sup>〇</sup>の具体例としては、ハロゲンイオン、BF4 イオン、BR' 4 イオン(R' は以素数 6 以下の歯和以化水素基又はフェニル 込)、PF 6 イオン、酢酸イオン、SO4 イオン、 HSO4 イオン、CF3 COOイオン、適場茶園 イオン、又はAS F6 イオン等を挙げることがで おる。

イドの知ざアルキルハロゲンを奉げることができる。

また、A、Bでいうアミノビリジンの例として、 2 - アミノビリジン、3 - アミノビリジン、4 -アミノビリジン、N - メチルアミノビリジン、 N - エチルアミノビリジンが挙げられるが、2 -アミノビリジンが電券性の高いパラ関数個合体を 与えるので好ましい。

本発明におけるボリアミノビリジンは、空気中で安定であり過当なドーパントをドープすることにより高電場性を示し、また比較的低コストで生産できるため工業的利用価値が高い。たとえば、一次電池、二次電池、太陽電池、光均電性材料または様々のデバイスとして利用可値である。

以下、実施例でもって本発明をさらに詳しく述べる。なお、生産ポリマーについては元素分析、 赤外分析、固体NMR及びDSC法により分析を 行なった。

2~アミノピリジン20g(0.21 モル)をエー

本発明のポリアミノビリジンは、たとえば下記 の製造方法によって合成される。

A. アミノビリジンを適当な酸化剂で処理する。 B. アミノビリジンを適当な塩で処理する。

C. AまたはBの方法で切たポリアミノビリタンを適当な改またはハロゲン化物で処理する。

上記 A でいう 海当な酸化剤の例として、たとえば有限合成化学においてフリーデルクラフト反応と呼称される一連の反応に使用される触媒(たとえば、塩化アルミニウム、塩化亜鉛、塩化スズ、塩化剤、三塩化鉄、三ふっ化ほう数、よう素などが挙げられる。)またはプロトン酸(たとえば胸酸 H C 2 O 4 . H B F 4 )を挙げることができる。

上記Bでいう適当な鬼の例として過敏酸アンモニウム、Bu 4 N C 14 、Et 4 N B F 4 。 Na C 1 O 4 、Na B F 4 のような塩を挙げることができる。

上記Cでいう適当な塩またはハロゲン化物の例として前記したプロトン酸またはメチルアイオダ

テル100 単に溶かし数1で示される酸化剤に 0℃で満下した。43℃で10時間辺後した技反 応を止め、充分エーテル、ベンゼンで洗った技様 圧依燥した。

ボリマーの色は、重合初期に砂茶色であったが 次に茶色となり、更に茶褐色に変化した。

又、生成ポリマーは、DSC 研定により、 300で以上の風点(分解点)を有することを確 窓した。

次に、生成ポリマーによう素をドープし、電砂度 of 1 2 を求め扱1 に示した。

### 実施例 4

2 - アミノビリジン 2 0 9 (0.21 モル)を水 1 0 0 或に磨かした。この液に塩である遊園医アンモニウム 0.1モルを水 2 0 0 或に溶かした液を0 でで満下した。 1 0 時間観、生じたポリマーを水で充分洗い質圧を燥した。

実施例 5~6

変 施 例 1 で 2 - アミノビリジンの かわりに 表 2 で 示される 化合物 を 使用 した 以外 は 実 施 例 1 と 同 様にして重合、狡処理し、ポリマーを得た。

建纸团 7

実施例4と同法で得たポリアミノビリジン5 5を水 1 0 0 起に分限させメチルアイオダイド 0.3モルを加え、空間で 1 5 時間反応させた。反応度水で充分洗い後減圧乾燥した。生成物は、一部(2) の構成単位をもつ、メチルアイオダイドの場になっていることを元素分析、赤外分析から確認した。

(以下余白)

表 1

灾途例	酸化剂 又は點	使用面	生成ポリマー 電路度の12(S/cm)	देश:स,
1	Fe Cla	0. 1	2. 1	Ü
2	Zn C 22	0. 2	1. 4	ΙŻ
3	{CU C L 2 A L C L 3	0. 1 0. 1	1. 8	以
4	(NH4)2 · S2 O8	0. 1	1. 5	Ü

4 0時間空気中に放置して、赤外分析より酸化の有無から可定した。

裘 2

灾施例	出死化合物	生 成 ポリマー 電炉度の1 2 (S/cm)	安进设*
5	3-アミノピリジン	1. 0	Q
6	4-アミノビリジン	0. 2	R

• 表1と周じ

特許出願人 昭 前 恒 工 以 式 会 社